千葉

台湾の信組100年 招待状

祖父が創立に尽力

習志野の吉村さん 出席へ

台湾東部・花蓮市の金融機関「花蓮二信」が今月20日に同市で行う創立100周年の記念式典に、習志野市でコンサルティング会社を営む吉村和就(かずなり)さん(67)が招待された。花蓮二信の前身の創立に祖父が携わったことが縁で、75周年式典にも出席した吉村さんは「台湾の人々の義理堅さに感謝の気持ちでいっぱい」と喜んでいる。

祖父の佐平さん
(吉村さん提供)

吉村さんによると、祖父の佐平さんは岐阜県出身。大地主の長男だったが、父親が連帯保証人になっていた知人が戦死したことで負債を抱えたため、大学を中退して1909年、日本の統治下にあった台湾・台南市に単身で渡った。親戚から事業のイロハを学んだ後で花蓮市に移り、製糖工場を建設するなど複数の事業を手がける実業家になったという。

花蓮二信の前身となる「花蓮港信用組合」を創立したのは16年。その後、20年間にわたって組合長を務め、現地の道路を整備したり、少数民族を積極的に雇用したりするなど地域経済の発展に貢献したという。

吉村さんが祖父の功績を知るきっかけになったのは、四半世紀前の91年。秋田県に住む母親の元に、花蓮二信から創立75周年の式典の招待状が送られてきた。創立関係者を通じて居住先を知ったといい、母親から連絡を受けた吉村さんは「幼い頃、祖父から『台湾で大きな事業をしていた』と聞かされていたけど、本当だったんだと驚いた」と振り返る。

母親に代わり、妻の恵子さん(64)と花蓮市を訪ねると、佐平さんが働いていた数々の事務所跡地を紹介された。「日本には一切ない祖父の足跡が、台湾に残されていた」と吉村さんは感慨深げに語る。その後も家族と同市を訪れたり、日本の統治時代の映画が台湾で撮影された際、資料を提供したりするなど台湾と関わり続ける中、先月、花蓮二信から100周年式典の招待状が届いた。

吉村さんは今回も恵子さんと出席する予定で、「祖父が築いてくれた日台のつながりを大切にしていきたい」と話している。花蓮二信は「吉村さんを迎えることを楽しみにしている」としている。

花蓮二信の沿革をまとめた冊子を見つめる吉村さん夫妻(習志野市で)

千葉支局 〒260-0013
千葉市中央区中央4-15-3
電話043-225-2001 Fax225-2190
メール chiba@yomiuri.com
成田分局
〒282-0011 成田空港内私書箱201
電話0476-32-5810 Fax32-9777
成田支局 0476-28-7911
京葉支局
〒273-0011 船橋市湊町2-5-1
アイカワビル5F
電話 047-431-2648
柏支局
〒277-0005 柏市柏260-3
電話 04-7166-0303
市川通信部 047-431-2648
木更津通信部 0438-22-2377
茂原通信部 0475-22-2524
松戸通信部 047-364-6271
銚子通信部 0479-22-0154
館山通信部 0470-22-0363
いすみ通信部 0475-22-2524
香取通信部 0478-52-2954
ホームページ
http://www.yomiuri.co.jp/local/
YC 購読は 0120-4343-81